

第6回 緑化フェア幹事会 議事録

詳細摘録

令和6（2024）年3月11日

■次第と記録記載ページ

- 1 開 会
- 2 全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について【資料1～3】
- 3 実行委員会第4回総会の議案について【資料4～5】
- 4 その他
- 5 閉 会

■日時と場所

日時：令和6年3月11日（月）13:30～15:30

場所：川崎市役所本庁舎2階ホール

■出席者

幹事（出席10名）			
	分野	氏名（敬称略）	所属
1	学識	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 准教授
2	協働推進	栗原 国男	公益財団法人川崎市公園緑地協会嘱託 東京農業大学地域環境科学部地域創成学科 非常勤講師
3	出展展示	深町 貴子	園芸家：多摩区在住
4	交通対策	米川 僚一	一般社団法人 川崎市交通安全協会 専務理事
5	会場運営	渡辺 広之	京都芸術大学芸術教養センター 客員教授
6	行催事	反町 充宏	一般社団法人 川崎市商店街連合会 理事・青年部長
7	広報・PR	大西 絵満	かわさき市民放送株式会社 代表取締役
8	植物調達	矢澤 和洋	セレサ川崎農業協同組合 営農経済本部 組織部 組織支援課 課長代理
9	植物管理	今井 伸之	川崎市造園建設業協同組合 副理事長
10	飲食・物販	萩原 ひとみ	一般社団法人 川崎市観光協会 理事

公益財団法人都市緑化機構 上野企画調査部長
事務局（小池局長、木村次長、岸課長、石垣課長、矢口課長、藤井課長 他）

■配布資料

資料	1	論点メモ
資料	2	取組状況について
資料	2-1	植物調達・管理ボランティア説明会
資料	2-2	かわさきフェアノベルティ・公式グッズ案
資料	2-3	フェア SNS 運用レポート（11～2月）
資料	2-4	協賛状況について（2月末日時点）
資料	2-5	フェア後に続く取組
資料	2-6	ミモザフェスタとの連携による取組報告
資料	2-7	みどりでつなげるイベントが武蔵小杉に大集結する休日大満喫 FES. を開催します！
資料	2-8	調達品種・株数等について
資料	3	質問対応表
資料	4	令和6年度事業計画（案）
参考資料	5	令和6年度収支予算（案）

■会議録

1. 開会（次第1）

事務局（木村次長）

それでは定刻前ではございますが、委員の皆さんが全員お集りということで、ただいまから第6回緑化フェア幹事会の方を開催させていただきたいと思っております。本日は大変お忙しい中、当幹事会にご出席いただきまして、ありがとうございます。進行をさせていただきます。川崎市市政100周年記念事業全国都市緑化川崎フェア実行委員会事務局次長の木村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。以降、着座にて失礼致します。いよいよ、100周年の年を迎えましたけれども、今年は、1月1日から能登半島で起きた地震という事で、波乱の年明けになった訳でございますけれども。奇しくも本日3月11日ということでございまして、本日は震災がございました午後2時46分にこちらの黙とうの放送が入る予定となっておりますので。私共の方と致しましても、少しご冥福をお祈りする時間を取りたいと思っておりますので、また会議中とのことで、恐縮ではございますが、よろしくお願いいたします。

それでは、早速会議の方を進めさせていただきます。まず議事に先立ちまして本日の幹事会は公開の取り扱いとさせていただきます。また本日の会議録に個々の発言者氏名を記載することを予めご了解ください。本日傍聴者等申し出はないようでございますが、公開でございますので、募集があった場合はご報告させていただきます。

また、事務局といたしまして緑化フェア推進室、シティプロモーション推進室市制100周年記念事業推進担当、建設緑政局緑政部職員等の本市職員が出席しております、また記録作業等のため委託事業者も同席しております。

また、川崎市とともに緑化フェアの主催である、公益財団法人都市緑化機構より、上野企画調査部長にもご同席をいただいておりますのでご紹介致します。

それでは会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。当幹事会からペーパーレスによる会議とさせていただきますので、お手元に配布いたしましたタブレットで資料をご覧下さい。タブレットの操作等に不安がある方がいらっしゃいましたらスタッフにお声をかけていただければと思います。

本日の資料につきましては、「00_次第」から始まりまして、「資料1 論点メモ」「資料2 全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について」、また「資料2-1~資料2-8 各種取組状況の報告資料」「資料3 質問対応表」「資料4 令和6年度事業計画（案）」「資料5 令和6年度収支予算（案）」を配布させていただきます。

また、補足資料として、「資料4, 5補足 実行委員会総会について」という資料も付いております。

資料の不備などがございましたら、会議の途中でも、スタッフまでお声がけを頂ければと

思います。それでは、これからの進行につきましては、福岡幹事長にお願いしたいと存じます。福岡幹事長よろしくお願ひいたします。

福岡幹事長

はい、それではここから、私が進行を務めさせていただきます。
次第2「全国都市緑化かわさきフェアの取組状況」について、事務局からご説明の方よろしくお願ひいたします。

2. 「全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画策定以降の取組状況について」について (資料1～3)

事務局（岸課長）

はい、私の方からは資料1から3まで一括でご説明させていただければと思います。資料1につきましては、本日の資料2と資料3の主な論点について記載しているものでございまして、本日につきましては、第6回というところで、赤字の部分についてご説明をさせていただければと思います。それぞれ共通事項につきましては、協働推進ですとかそれから会場の考え方につきましてこの記載の通りの内容となっております。

また1ページめくっていただきまして、2枚目のところの、下段の2つでございますが、飲食物販と会場運営・交通輸送に関しましては、飲食物販の募集についてと交通管理者、事業者との協議調整につきましては、今後個別ヒアリングを予定しているため、本日は議題から除いております。よろしくお願ひいたします。

それでは、資料2の方からご説明をさせていただきます。全国都市緑化かわさきフェアの取組状況についてということで、右肩の資料2の表紙をめくりいただきまして、右肩のページに1ページと書いておりますので、ページの方でご説明をさせていただければと思っています。全国都市緑化かわさきフェアの基本計画策定以降の進捗状況について本日はご報告となります。富士見公園会場につきましては、「多様性×みどり」をコンセプトに、川崎の多様な魅力・文化・技術を反映したみどりのオープンスペースの利活用を展開し、みどりの価値に触れ、実感できる空間を創出してまいります。次に2ページをご覧ください。各展示の具体的なイメージにつきましては、今後作成予定のパンフレットやホームページ等での記載を意識した内容としておりまして、例えば左側に記すメインガーデンにつきましては、工場のモチーフが次第にみどりに包まれていく、これまでの川崎と、その先に広がる花畑でこれからの川崎等を表現する緑のガーデンを展示してまいります。

次に5ページをご覧ください。等々力緑地会場につきましては、「体験・体感×みどり」をコンセプトにみどりを身近に感じ、リラックスしながら自由な時間を過ごせる空間ですとか、スポーツアクティビティ等を中心としたさまざまな体験・体感の場を創出してまいります。次に6ページをご覧ください。左に示すメインガーデンにつきましては、学生・企業・

団体の方々が持つアイデア・ノウハウを掛け合わせ、「五感を刺激するみどり」をテーマに Active Garden を展示してまいります。

次に 9 ページをご覧ください。生田緑地会場につきましては、「文化・歴史×みどり」をコンセプトに楽しみながら会場づくりの取組を展開するとともに自然を感じながら体験できる展示を提供してまいります。

次に 12 ページをご覧ください。ばら苑の特別展示につきましては、秋の開期中は、多摩丘陵の樹林地に囲まれた 360 度の緑のパノラマと清涼な空気が体感できる「秘密の花園」にて、ばらを鑑賞しながら寛げる飲食休憩スペースを設けるほか、ばら苑の魅力やこれまでの歩みや色々な取組などを紹介してまいります。各会場、大体 6 コマ位ですね、会場のイメージがわかるようなこういった写真やイメージ、パンフレットに使われるようなものを掲載していくところでございます。

次の 13 ページから 15 ページにつきましては、各会場エリアでの期待感や、もてなし感の演出イメージを、写真とイラストを使ってですね、こちらも画面でご覧いただいているようにそれぞれの会場で表現しておりますので、後程ご覧いただければと思います。

次に 16 ページをご覧ください。町中巡りスポットの一つである臨海部キングスカイフロントにつきましては、公共空間と民間開発区域が一体となったシームレスで質の高いみどりの空間を創出など市域における官民の融合による“新たなみどりの核”を目指すということで進めてまいります。

次に 17 ページをご覧ください。協働・連携した取組につきましては、左側に示す通り、市内の市立小学校、中学校、特別支援学校全 170 校に加えまして、地域周辺企業等と連携し、花苗などを作り、次の世代につながる取り組みを実施すること、みどりを知り触れて、楽しみ、係るというきっかけの展開をしてまいります。

次に 20 ページをご覧ください。令和 5 年度に実施した新たな担い手となる世代との取組につきましては、左側に示す、「みどり×高校生・大学生×地域ボランティア」として、公園緑地等における「協働の取組」を次世代に継承するため様々な人と連携しながら活動を緑の活動体験を実施したとところでございます。

次に 22 ページをご覧ください。ボランティア募集についてですが、会場の植物管理や、市内の小中学校などで花苗育成のサポートなどを目的に本年 1 月 9 日まで募集を実施しており、定員をこえる 190 名の応募がございました。今後につきましては、会場内の運営ボランティアにつきましても、4 月以降に募集を開始する予定でございます。

次に 23 ページをご覧ください。実行委員会参画団体等との取組につきましては、みどりの共創プロジェクトとして、「コミュニティ×みどり」をテーマに、生活満足度と愛着の向上という課題を、みどりで繋がるコミュニティの創出により解決することを目指した取組を実施してまいります。

次に 24 ページをご覧ください。観客誘致・広報宣伝につきましては、通年の取組として多くの人と繋がり、関係事業が増えるよう、SNS の発信や、ノベルティ等を活用した各種

イベント向けへの特別掲出を行っているところでございます。また下段の図表で示す広報集中期間につきましては、秋フェアについてはおおむね 8 月末から、春フェアにつきましては、翌年 2 月中旬からガラッと印象を変えて、インパクトのあるもてなし感を醸成するため、周域を対象に広告を展開してまいります。

次の 25 ページから 26 ページにつきましては、令和 5 年度の実績を掲載しておりますので、後程ご覧いただければと思います。

次に 28 ページをご覧ください。令和 6 年度以降の取組予定につきましては、上欄に示す通り、集中期間として電車やタクシーの車内などを活用した交通広告や、フェアを多くの人に「知って、関わってもらう」ため、スポークスマンを育成するなど発信力の効果を高めてまいります。

次に 29 ページをご覧ください。公式行事につきましては、かわさきフェアの始まりを告げるとともに、川崎の魅力や文化を発信するアトラクション等を実施する総合オープニングセレモニーや開会式を、フェア期間を振り返り、次期フェア開催地への引継ぎ等を行う閉会式などを富士見公園会場およびカルッツかわさきにおいて実施する予定でございます。

なお、次の 30 ページにつきましては、秋・春会期中の公式行事の考え方につきまして、31 ページにつきましては、フェア会期中に実施するイベントの予定写真を掲載しておりますので、こちらも後程ご覧いただければと思います。

次に 32 ページをご覧ください、植物調達につきましては、植物の計画的な納入、会場での施工、維持管理を適正に実行するため、川崎市造園建設業協同組合など 3 社で合成される協同組合から創出される全国都市緑化かわさきフェア植物調達協議会が、10 月に発足し、取り組みを進めていくところでございます。次に 33 ページをご覧ください。その他分野別の概要につきましては、五感で感じる川崎の魅力発信をテーマに、川崎市の地を活用した飲食・物販サービスの提供に加え、環境先進都市としてふさわしい会場運営・管理などを実施してまいります。また容器のリユース、リサイクル等の環境に配慮した取り組みを実施するとともに、資源のリサイクル等を実施するようステーションを設置してまいります。また下段に示す交通対策につきましては、公共交通機関の利用を前提とし、最寄り駅等におきまして、ボランティアや警備員を配置し、案内サポートを適切に実施してまいります。次に 34 ページをご覧ください。令和 5 年 10 月以降の取組につきましては、図表に示す通り、10 月の 1 年前イベントを皮切りに、フェア開催に向け、会場づくりや協働、広報などの各分野におきまして Action を展開しているところでございます。次に 35 ページをご覧ください。秋開催までの取組についてございますが、様々なターゲットに対して、柔軟かつ機動的にプレ事業を展開することで、認知度の向上や機運醸成を図ることを目的とし、特に 100 日前等の節目にとしてのカウントダウンと、それから参加の感謝と地域のバランスに留意しつつ、取組を引き続き展開してまいります。最後 36 ページに今後のスケジュールを掲載しておりますので、こちらも後程ご確認いただければと思います。

資料 2 についての説明につきましては以上でございまして、補足の資料 2 と 1 のご説明を

させていただけたらと思います。資料 2-1 につきましては、植物調達、管理のボランティアの説明会のご報告でございます。1 ページ目でございますけれども、先程も説明を致しましたボランティア 190 名の内訳でございますが、市内が 170 名、市外は 20 名。世代別といたしましては、60 歳以上が約 6 割、一方で 30 歳以下が約 1 割となっておりますので、引き続き、様々な取組を通して若年層のアプローチをしていく必要があると考えているところでございます。続く 2 ページ目につきましては、全 4 回実施致しました植物育成管理ボランティア説明会の様子と日時を記載しているところでございます。

次に資料の 2-2 でございます。令和 6 年度の公式グッズ、それからノベルティの考え方というところで、案として提示したものでございます。1 枚資料をめくっていただきまして、令和 4 年 5 年度につきましては、画面に示す通り、特に不特定多数や子供向けの取組を実験的に実施しておりまして、こちらを踏まえて、令和 6 年度の取組ということで、3 ページでございますけれども、年齢層と緑の関心度を縦横軸で主にこういった少しグッズの不足しているエリアというのを、関心の高い層や低い層ですとか、関心が低く年齢も低い層のようなどころに向けて、少しグッズの方を作っていくたいというところでございます。

次の 4 ページです。具体的グッズ化の事例となりまして、先ほどの①～④につきまして、今の段階での案ということですが、例えば①のゾーンにつきましては、ペーパークラフトですね、植物を切り貼りできるようなコンテンツでアピール。

次の 5 ページにつきましては、②の関心の高く、年齢の高い層というところで、自宅の窓際ですとか、玄関口などに飾る、あるいは写真を SNS で投稿してもらうような、少し参加の仕方も含めたロゴシールですとかガーデンプックなどのようなものと考えているところでございます。次に③につきましては、関心が低く年齢も低い層向けあるいは中層向けというところで、こちらにつきましては少し公式グッズということも視野に入れまして、定番ですが、トレンドを踏まえた身近に活用できるもの、公式グッズについては、かわさきフェアとして相応しい、市内の名産品ですとか地域資源を活用したものを少し考えているところです。また企業さんとコラボした限定グッズなども判断していきたいなと思っております。次に④関心度低く年齢層が高いといったところに向けてですね、こちらにつきましては身に着けてフェアを PR していただくという中で、PR 度の高いピンバッチですとか、右側でございます通り、こちらは生田緑地の事例ですが、川崎の藍染を使った公式グッズ、あるいは郵貯さんと少し連携して、記念切手のシートみたいなものを作っていくたいな思っております。資料 2-2 の説明について最後、その他事務用品ですね。こちらにつきましては、養生テープとか色んなイベントの中で、グッズ等をお出しする中で、ロゴ付きの備品などといったようなものを作っていくたいと思っております。

資料の 2-3 でございますが、こちらにつきましては、前回の会議以降の SNS の運用レポートということございまして、説明は資料があるので割愛させていただきますけれども、フォロワー数についてですとか、運用や良かった事例等を記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

資料 2-4 につきましては、協賛の状況というところでございまして、2 月末日時点の結果を本日の報告をさせていただきますと、2 月末時点 132 の企業・団体から協賛をいただきました。資金協賛につきましては、目標としていた 1 億円を達成しております。その他物品広告の報告と致しまして、それぞれ約 5 千万円の協賛活動にご参加をいただけるというところでございます。ご協力をいただきました多くの方々に対しましては、この場を借りて御礼を申したいと思っております。ありがとうございます。

次に資料 2-5 でございます。フェア後に続く取組というところで、会場ごとに今後の話のフェーズで触れた実施する取組について、視覚的に写真等で表しておりますので、いくつかご紹介をさせていただければと思います。まず富士見公園会場につきましては、資料上段・中段・真ん中にございます通り、市役所通りをはじめとした道路空間の活用、あるいは右側の室内緑化・最先端の緑化技術の発信や、こういったものを活用した壁面緑化の事例、左の下になりますけれども、若年層の構築のようなところで、地域ボランティアと協働による花壇づくり、それから富士見公園につきましては、右下になりますけれども、夜の公園の利活用といったところを今後の取組として継続していきたいと考えております。次の等々力緑地会場でございますが、等々力緑地につきましては、上段の真ん中にもございます保育園と協働した花壇活動それから、右の下でございますが、特に樹林地や釣り池等というところの今後の利活用につきましても、まあ等々力緑地につきましては、今後再編成がございますので、残るものという中でこういったところの活用を考えていきたいなと思っております。次に生田緑地会場でございますが、生田緑地会場につきましては、こちらの上段真ん中にございます大学と連携した道路空間の活用の創出といったところと、左下になりますけれども、企業との協賛による花壇造り、それから右下にございますが、緑地内の資源の利活用として、ナラ材ですとか、そういった地域と連携した保全活動の拡大といったものを継続可能かと考え、こういったものを継続、形にしていきたいという風に考えております。

次に資料 2-6 でございます。こちらにつきましては、今年で 9 回目となります川崎「ラ チ ッタデッラ」で行われているミモザフェスタとの連携による取組報告ということでございます。次のページをご覧くださいと、2 月 15 日から 3 月 17 日迄、川崎地産のものを使ったコラボメニューを使いまして、かき氷やサラダやそれから、パンケーキなどを各店舗で開発し、そちらをメニューとして提供したといったところでございます。また 3 月 2 日・3 日のイベント、こちら既に過ぎていたところではございますが、周知の一環として、お花釣りですとか、会期中に実施を予定しているスカイランタンについてイベントの中で実施をしたところでございます。次ページ以降に少しその取組の様子を写真で、こちらが、川崎「ラ チ ッタデッラ」のメニューと、それからお花釣りですとか、その時のお祭りの様子、それからスカイランタンの実演の様子といったところを少し写真でご紹介させていただいております。

次に資料の 2-7 でございます。こちらは今後予定しているイベントのご紹介というところで、本日会議室内にパンフレットの方も置いておりますので、お帰りの際にお持ちいただけ

ればなと思いますが、3月23日にプレー年前のイベントというところで、プレイイベント企画でございまして、川崎ブレイブサンダースさんそれから、地域の団体さんですとか、公園の指定管理者さんそれから中原区役所とかとも連携した中で、このエリア周辺を、広いひとつの大きな会場に見立てて、1日小杉を大満喫していただくようなイベントを開催致しますのでご紹介致しました。是非お立ち寄りいただければと思います。

次は資料の2-8でございまして、2-8につきましては、調達品種と株数等でございまして、上段でございまして、品種数につきましては、秋開催・春開催の合計で434品種、秋については、コスモスやマリーゴールドなど。春についてはキンギョソウや、パンジー、ビオラといったところでございまして、また株数につきましても、一旦全合計として約38万株を予定しているところでございまして。

次に資料の3でございまして、こちらにつきましては、各幹事様から頂いた前回会議に対するご意見につきまして、対応方針を記載しておりますけれども、今までの資料1・2までの内容の中で、概ね記載の内容については確認させていただきましたので割愛させていただきます、それから漏れた部分につきまして、少し何点か紹介させていただければと思います。

まず2ページの最下段でございまして、こちらはですね萩原議員からいただきました、企画ブースの面積が広い為、参加者の費用負担のハードルが高い、「参加者様の費用負担のハードルについて」の質問をいただきましたが、意見につきましての回答といたしましては、会場でメインとなる部分は川崎市の資金を投入して整備しつつ、コンテストの出展や個別協賛による装飾など事業者側にも金銭以外のメリットが感じられるものについては、事業者様の技術力などのPRの場として負担のない範囲で対応したいと思っております。

続きまして、資料4ページでございまして、4ページ上段でございまして、「緑化フェアの内容を年配の方ですとか商店街組織の方が理解できるように、出来るだけシンプルで分かりやすい表現が必要であるのではないか」というところで、こちらにも主な委員の方から色々な意見をいただいたところでございまして、そちらに対します方針と致しましては、今回まだわかりやすい用語についてご提出することができないのですけれども、引き続きターゲットごとの伝達方法ですとか内容やキーワード等を少し工夫しながら、それぞれのターゲットに応じて、来年度の出来るだけ早い時期に、目的や内容をわかりやすくまたキーワードなどを、それぞれに提示していこうと思っております。

次が資料6ページでございまして、「飲食・物販の中の、エントリー方法が決まれば、今後周知していきたい」というこのご意見につきましては、右にあります通り、飲食・物販については、現在、募集に向けてテントやキッチンカーの配置、設置数、電源確保などの条件整理を行っております、年度内に取りまとめを行っていく予定でございまして、秋開催の募集につきましては、4月末以降を、春開催の募集につきましては、秋開催での様子も見て、出店判断をされる方もいらっしゃると思いますので、11月以降を予定しているところでございまして、資料3につきましては、以上でございまして、こちらまでで、資料の説明につきまして

は、以上でございます。

福岡幹事長

ご説明ありがとうございました。

それでは、ここから幹事の皆様からご説明のありました資料1・2・3、それから2-1から2-8まで、ご意見いただければと思います。どなたからでも構いませんので、挙手をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

栗原副幹事長

どうもありがとうございました。先程の説明の中で、僕は協働の方に入っているのですが、ボランティアさんの募集が予定よりかなり多い人数が集まった事は、すごく良かったなど、非常に心強い、そういう感じですがけれども、実際に説明会に参加させていただいて、そのうち3割位の方が今回初めてやられるとのことだったのですね。これからの日程として、市民協働型の花壇を会場の中に造るという話があって、説明会の時には、具体的な話をしていなかった気がするのですが、実際にそういう市民協働型の装飾、会場づくりみたいなものを計画しているのかどうか。

それから、8月から9月に向けて、合同説明会や事前の現地視察みたいなものをボランティアでやると話もあったのですが、もしそういうボランティアさん以外の市民を巻き込んで会場造りなどをしていくとなると、初めての方が3割位いたので、事前にデモンストレーション的なことを、仙台でもやっていたとお話を聞いているので、そういうこともやっていった方がいいのかという気が致しました。人数的にはかなりの方に参加していただけて良かったと思うのですが、次のステップとして今後どういう風に展開していくのかをお聞きしたいのが1点と。

もう一つ先程のテーマガーデンの中で、等々力のアクティブガーデンの話を見ていて、学生と企業のワークショップでデザインを行う企画を見させていただいて、非常にいい試みだったなど。話の内容や快適なデザイン、方向性というもので、これも面白いと思うのですが、これも実際今後23日にプレオープンのような形で今までの成果を発表していくような話も伺ったのですが、これに関しても、実際本番に向けて、そういう学生とか企業さんが一緒になって作っていけるような何かそういったものの企画を考えているのであれば、それについても聞かせてもらえればと思います。

事務局（矢口課長）

栗原幹事ありがとうございます。一つ目の、市民協働花壇の質問について、回答させていただきたいと思います。まず、市民協働花壇、会場と会場以外の展開を考えている部分がございます。今一つ、多摩川の河川敷に、多摩川ならではの菜の花畑ですとかそういったような花壇を市民の方と一緒にできないかなと考えているところでございます。もう一つは会

場の方の市民花壇を一緒に造るという点ですが、そういった催しをする場合、経験あるボランティアの方々には先陣をきって関わっていただきたいなと考えを持っております。でもその場合は、やはり先に何かしらのレクチャーをし、先にボランティアの方々に体験をしていただいて、その次に、一般参加者の方々にどうぞこちらですよといったサポートをしていただくという取組がふさわしいと思っております。これからも検討をしていきたいと思っております。

事務局（藤井課長）

続きまして、等々力のメインガーデン、今、学生と企業とコラボレーションに参加して検討を進めております。資料2の6ページですね、左側のメインガーデンになります。ワークショップについては、ここまで2回、最初に学生だけで1回目、2回目で企業さんに入っていて等々力の皆で集まってワークショップを開きました。今、それを元に、オフライン等で会議をされながら進めております。先程おっしゃっていただいたように、3月23日にお試し・お披露的な取組をしていただいて、これをもっと大きくして、本番の会場で市民皆さんにも関わっていただきながら、進めていただきたいと思っております。学生さんに引き続きお声がけさせていただきながら、興味ある企業さん等に入っていて、これを契機に、横展開できないかというところも考えていますけれども、なるべくそういうニュアンスが広がっていくような、取組が広がっていけば良いと思っております。

福岡幹事長

はい栗原幹事ありがとうございます。それでは引き続き、ご意見ございましたら、是非お願いいたします。いかがでしょうか。渡辺幹事お願いいたします。

渡辺幹事

皆様、お疲れ様でございます。その後、かなり内容が固まってきた中、今後のことを考えながら聞いておりました。ボランティア目標に対して190は、いい感じですが、若年層もいないと、中々この活動は、厳しいので、少し検討の余地はあるかと思えます。さて、私は、会場運営担当で幹事会に参加させていただいているのですが、現在、運営にとって一番の課題があれば、事務局からここで、教えていただきたい。

また、ボランティア状況はわかりましたが、全体運営に関わる関係者は、どういった方を想定しているのか、勿論、市の職員、それから専門業者のスタッフ、それから出展者、大学高校の皆さん等が考えられますが、運営に関わるカテゴリー及び、誰がこの緑化フェア運営の“核”になるのか、また、全体の進捗も教えて頂きたい。

あと、海外の方々が、緑化フェア自体にどのように参加するのかを知りたい。また、せっかく100周年で、スタートする訳だから、海外との交流を、どのように展開するか、羽田におけるPRだけでなく、姉妹都市提携含め、検討してもらいたい。あくまでドメスティック

での川崎都市緑化フェアでいいのか、もうちょっとグローバルに展開していくのか含め、質問兼、意見としてお伺いさせていただきました。

事務局（藤井課長）

ありがとうございます。まず運営についてですけれども、ちょうど今プロポーザルで発注をかけていますが、市ではこの程度の大規模サイズのイベントは今までほとんど経験がないため、委託業者さんに入っていただくというところで、業者さんで、運営をしっかりやっていただくところが重要と考えています。その上で、建設緑政局だけではなくて、例えば交通の分野のご意見があれば、それを所管している部署もありますし、それこそ庁内で連携を取りながら、区役所ですとか、そういったところとも連携を取りながら、しっかりサポートしていきたいという風に考えております。またボランティア募集に関しましても、今募集しているのが植物調達のところになりまして、引き続き会場の運営ですとか、まずは会場スタッフといったところの募集もかけていますし、ご指摘の通り、若年層がいないというところに関しては、学校ですとか少しそういった所で、呼びかけをしていきたいなと思っております。以上でございます。

事務局（岸課長）

続きまして、姉妹都市の関係につきましても、会期中に姉妹都市の方につきましても、視察の方を予定しているという風に考えているところでございまして、こちらにつきましてもは総務局の方とも調整していく話をさせていただいているところでございます。また羽田での海外向けの話でございますけれども、インバウンド対策として、イベントを羽田の駅でできないかと思っているところで、航空会社さんと連携する中で、機内に広告が出せないかとか、あるいは出口のところで見させていただくとか、あるいは出航のゲートの方に広告を出していきたいなという風に思っております。ガーデンというところの目線だとすると、外国人の方には、意外とガーデンというのは、前向きなものなのですね。ただ、川崎につきましても、インバウンドで外国人の方がかなり来ていらっしゃるということを、経済統計局さんからもお伺いしているのですけれども、実際市内ではあまり見ないと認識しております。多分羽田から近いので、京急線で12～3分というところなので、来ていただけるけれども、当日の観光ですとかは、横浜の方とかに行かれるということがございますので、来ていただいた方に来る前のアクセスは勿論ですけれども、宿泊していただいている場所ですとか、そういったところで、一日の滞在だけされる方はなかなかいないようなので、滞在した中で、少し川崎の方がいいですとかアイデアを含めた話を施設の人にさせていただくとか、そういったように、旅行会社さんですとか、ホテル関係者さんですとかと連携させていただきながら、進めていきたいなと考えているところでございます。以上でございます。

福岡幹事長

渡辺幹事ありがとうございました。引き続きご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

今井幹事

今井と申します。よろしくお願いいたします。各会場について、具体的な設計等もだいぶ進んでいるとは思いますが、今回イベントなので、色々花壇作ったり装飾作ったりすると思うのですが、フェア後に作ったもの、残せるものは残す事とかはありますでしょうか。等々力緑地は、再編整備が入るので難しいと思いますが、例えば富士見とかはレガシーガーデンとして色々残せるかと作ると思うのですが、生田に関しては、ここはブースがなくなった段階で、装飾関係多いと推測されるのですが、それも終わったら現状復帰で全てなくなってしまうのでしょうか。企画性のイベントなら別にいいかと思いますが、せっかく今回のフェアをきっかけとして、今後の川崎の緑の進化みたいなもの考えるがテーマにあったと思いますので、今後どうなるのかというのは、仕事で緑に携わる人間として、気になったのですが、決まっているのであれば教えていただきたいと思います。

事務局（藤井課長）

ありがとうございます。資料2-5に書いてあります「フェア後に続く取組」とついてというところでですね、今回少し説明付けをしたいと思っております。基本・実施計画等のレガシーについては、だいぶこう先を見越して書いておりますが、それに向かって令和6年は、令和7年以降はどうかという所については、少しご説明した方がいいのかと思っております。例えば、富士見会場で言いますと、今回駅から会場まで間のところで、市役所通り道路空間の活用ですとか、左下にあるような企業協賛によるバスケットですとか地元と連携した花壇活動みたいなことをしていく、これは、しっかり継続して残していきたいと思っております。富士見公園においてはですね、室内緑化・緑化技術の利活用みたいなところが、引き続きやっていきたい、壁面緑化・室内緑化の実現発信などのところをイメージしております。こちらの章については、今回を契機として、これは引き続きやっていきたいよというものに関して案内しておりますが、どうしても今回残せるものと残せないものがありますけれども、単純にハードとして言っておりますが、今回の緑化フェアでは、地域との連携ですとか、これを機に何かを繋がりややっていこうというようなところを大事にしておりますので、例えば、等々力のケースで、左下にあるような、保育園と協働した花壇があるのですが、水道がないのですね。それで、今回協働した保育園にお声がけをした時に、散歩の途中で保育園の児童が、ペットボトルに水を汲んで、水やりをやってもよいと提案いただいて、今、7つの園が協力してくれています。おそらくこういった関係性を作っていくことが非常に大事なかなと考えているところです。場所として残らないことがあっても関係性を大事にしていくことが非常に重要かなと思進めていきたいという風に考えております。以上です。

今井幹事

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

福岡幹事長

今井幹事ありがとうございました。続けて、私も補足ですけれども、レガシーを考えるときにどうしても、終ってから、「さて余ったからどうしようとか、さて会場を撤去・復旧しないといけないから」とか、そういう修復的なレガシーは、仙台でも行っていますけれども、川崎の場合は、事前に調達の段階からどこから調達するかかなり厳密にやられていて、できるだけ川崎のものとなっていていますが、レガシーの方も出ていく方ですので、多分その場に残す、あと地域とかそこに生活している人、働いている人をあらかじめ巻き込んでつくと、必要なものを、緑のものや自然で作った後に、またその街にそれをお返しするとか、移すということですね。多分それが、デザインできていると、廃棄物を減らすことが出来ると思いますし、多年草だと、株分けをどうするのかという話になってくると思いますけれど、その辺りを早めに、参加していただいている主体などと議論しながら詰めていくことが大事なんじゃないかなと思ひまして、調達の方から声を出していくのは、重要なご指摘だと思ひました。

福岡幹事長

引き続きまして、ご意見伺いたいと思ひます。矢澤幹事お願い致します。

矢澤幹事

先月2/13~2/15、3日間かけまして、川崎ラゾーナ・川崎駅前にて、馬絹の花桃を活用して、市内産花卉のPR、それと合わせまして、緑化フェアのPRをさせていただきました。ご協力をいただきまして、ありがとうございました。引き続き、次年度になりますと、100周年本番の年になりますので、協賛企業の方々や多くの市内企業の方々が花壇装飾等を実施すると思ひますけれども、JAだからこそこできる内容というのもの、発信していきたいと思ひております。組合長も何かしら考えていきたいと話しておりましたので、その節は、またご協力のほどよろしくお願いいたします。

今井幹事のお話とも紐づくのですけれども、フェア後に続く取組というところで、高校生、大学生ですとか参加する市民の方が装飾するような形もあると思ひます。お考えをお聞きしたいのですが、その時使う花材は、市内産の花卉を使っていくような考えがあるのかと、または検討していく予定であるのか、そこについて教えていただきたいと思ひます。

それと飲食物販のところ、今市内で、かなり急速にイチゴの生産者さんが増えてきています。市内農業・都市農業というところにおいても、農地が限られているところに、ハウス・施設を建てて、農業を守っていかうという方が温室栽培をする中で、イチゴの生産者が増えている現状があります。イチゴに関しては、毎年年末位から収穫始めになって、5月長けれ

ば5月末くらいまで収穫が続きますが、フェア期間中、春開催の時、まさに収穫真ただ中というところもありますので、イチゴに絡めた飲食・物販の協力もできればなという風に考えております。その辺りも含めてお考えをお聞かせ願いたいと思います。以上です。

事務局（藤井課長）

まずは、市内産の花卉につきましては、この川崎フェアにおいては、川崎で花の生産をしているということを知らない方が多いのではないかとこのところがありまして、まず川崎フェアに向け、川崎で多くの花を作っていますよというところをしっかりとPRすることが重要かと思っております、それにより、せっかくこう川崎圏でこういった花を作っているのであれば、それを積極的に使ってみようかとか、個人の方であれば、そういうものを優先的に買ってみようかという機運を作っていくことが重要なのかと思っております。まずはしっかりと川崎市の花だよとアピールをしていきたいと思っておりますし、それを知ることによって、フェアをきっかけに、行政を通さない、市民や民間レベルで花植えを行う際に、まずはしっかりと川崎の花をと思っただけのような雰囲気にもっていけるような取組が重要かと思っております。当然、行政が入るものについては、市内産で意識的に取り組んで行こうと変えていこうと思っておりますので、引き続きまずはしっかりとPRと、これが川崎の花だよというところをアピールできればと考えております。以上です。

事務局（矢口課長）

続きまして、飲食・物販でございます。こちらの川崎フェアにおきます飲食・物販につきましては、川崎産の農作物を使用したものや、川崎ならではの食文化、こちらの発信に繋がっていきたくと目標にしているところでございます。ですので、市内産で、こういう野菜や果物があってというところを知っていただくということは、そこは大々的にPRをさせていただきたいと思っております。その中で、こういった形であれば、市内産を購入することができるのか、一般の方が興味を持たれたところで、こういったところに行けばいいですよということとかを発信する時に、JAさんにご相談をさせていただきたいと思っておりますので、その際は、ご協力をしていただきたいと思いますと思っております。先日、ミモザフェスタの方におきまして、川崎産のお野菜それから果物を使いましたメニューの方を提供させていただいております。こちらの方も、唐辛子を使ったポテト、とっても美味しかったとか評判をいただいております。こちらで得た感想なども、またフィードバックをさせていただきたいと思っております。引き続きよろしくお願い致します。

福岡幹事長

では引き続きご意見いただきたいと思いますと思っておりますが、どうでしょうか。深町幹事お願いします。

深町幹事

はい、深町です。私は、出店展示担当なので、今回の論点ではないのですが、一つ質問としてお伺い致します。今回の緑化フェアは、秋と春2回開催ですと、秋苗を植えて、春に入れ替わる訳ですね、その間、入れ替えた時に、当然苗を抜くわけですが、その抜いた苗は、どのように後処理をされるのか、当然、大量の土ですとか、抜いた苗だとかがあると思いますが、それはきちっとお考えがあるのかどうかを聞きたいです。あともう一つ、企業様からの物品等の協賛金が5千万円程集まっているとのことですが、どのようなものが集まっていて、更にせっかく協賛をいただいたのに、最後はバラまいてしまうということでは、企業様のせっかくの意図が台無しになってしまうと思いますので、土だとかプランターとかが入るのであれば、このフェア内できちっと取り留めるようなもので計画をされているのかを、お伺いしたいと思いました。

事務局（藤井課長）

まず、花苗等は植え替えをしていくということになります。具体的な内容は検討中のところもありますが、例えば、仙台の事例でいいますと、植え替え後に子供達が持ち帰られるようなイベントをされていたりもししていました。会場は片付けてまいりますけど、例えば、どこか違う場所に植え替える等もあると思っておりますので、単純に廃棄ということにはしないように検討していきたいと思っております。

それから物品の方では、いわゆる緑化資材みたいなものもあれば、例えばボランティアさんに使っていただく汗拭き商品のタオルとか、飲み物とか、中には、あそこを使っていいとかとか色々ございます。基本的には、緑化資材等も、緑化フェアの中で、我々と事前に相談はさせていただきながら、こういうのが有ると有り難いところを話した上で、計画をしていることがほとんどですので、とりあえずは会場内、周りを含めてその中で使っていくことがメインとなると考えております。以上です。

深町幹事

ありがとうございます。秋に苗を抜いた後、会期が空く冬の間、パレットガーデンとか、そういう場所は空っぽになるということでしょうか。

事務局（藤井課長）

場所によって若干違いますが、次に向けて残せるところは、春に向けて花壇を植えていきたいと思いますという体験ができるイベントを考えています。逆に公園によっては、一時的に広場等に設置したものは撤収しないといけなくなりますけれども、残せるところは春に繋がるような体験イベント等を開催できればと思っております。

福岡幹事長

深町幹事ありがとうございました。引き続きご意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

米川幹事

米川です。よろしく申し上げます。私は交通輸送の担当ですけれども、広報宣伝と会場の関係で、私は、瀬谷に住んでおりまして、瀬谷というと3年後の2027年に、横浜園芸博覧会があるのですが、先週から、会場周辺の幹線道路の敷地の境に、企業さんが協賛するという事で、企業名の入ったピンクののぼり旗で、ここが会場になりますと宣伝に入っております。のぼり旗がどの程度の効果があるのかというと、交通安全協会が交通安全運動等を実施する際に、幹線道路の脇にのぼり旗を掲出して、市民へアピールするというような手法を取っております。昨今のSNS等と比べて非常に古典的な手法ですけれども、宣伝効果があるというところで、集中期間中の宣伝とかに利用されれば、地元住民や地元のスポンサーの宣伝になるのではないかと思いますので、参考までに報告をさせていただきました。ちなみに、のぼり旗1本に対して、ひとつの協賛企業の名前が大きく書かれておりました。多分横浜の花博では、3年後にはボロボロになって廃棄かと推測されますが、直前の集中期間に掲出すれば、そんなに痛まないのので、会期終了後に協賛企業にお返ししたら、企業さんがそれを協賛したという記念になり、そういった形で再利用もできるかと思い、提案させていただきました。

事務局（岸課長）

ありがとうございます。のぼり旗等も含めた、街中への広報周知というところですが、資料の方ですと資料2の27ページの下の所にございます通り、1月末日から、100周年記念の中で、こちらの写真は、川崎駅の自由通路ですけれども、色んな主要駅で100周年を大きく出させていただいているというところがございます。こちらにつきましては、先程お話をさせていただいた通り、集中期間の中で、100周年も若干残しつつ、緑化フェアの広報をさせていただきたいと思っております。併せて駅周辺にある色んなフラッグ等につきましても、4月以降に、一旦、100周年に合わせて市域内にある大体2,000位のフラッグが、100周年仕様になるとお伺いはしております。そちらにつきましても、秋の集中期間に合わせて、仕様を変えて、掲出をしていく予定でございます。また年内の取組としましては、市内の主な幹線道路については、横断幕のようなものを道路上に出させていただいております。今年度末には、横断幕の数を増やしていこうというところと、花壇の設置に合わせて、高速道路につきましても、車の速度が速いので、いわゆる緑などそういったもので視認性の良い、緑化フェアやっていますというような単純なものになりますが、そういったものにつきましても、市内道路上にだいたい4箇所くらい設置をさせていただこうと思っております。のぼり旗につきましても、本日ご意見をいただきましたので、検討をさせていただけれ

ばと思います。以上でございます。

米川幹事

ありがとうございます。経験上、横断幕はスピードを出して走っている車からは、情報が多く載っていても一瞬では読むことができない、単純な何をいつやるくらいの表記が良いという風に感じます。あと、会場周辺の方々にも、ここが会場だよというように、会場周辺の駅構内とか商店街では色々掲出をされてはいるかとは思いますが、会場周辺の方々に周知するような、会場周辺の掲出もお願いしたいと思います。

大西幹事

ありがとうございます。かわさき市民放送の大西です。よろしく願いいたします。非常に具体的な絵が見えてきまして、またよりワクワクするような容になっていると思います。広報宣伝につきまして、資料 24 ページ、25 ページあたりですが、まず協賛金、広告協賛に 5 千万円ということで、市内や協力団体の皆様のご協力を得て広告の掲出等が行われるとのことで、更なる認知の向上とフェアの盛り上がりを期待しております。

それからこれから始まる広報集中期間に向けて、どういうことが具体的に仕掛けられていくのか、という点について、特にマスメディアの展開やイベントを絡めた広報というのは、開催予定のイベント告知のような内容が多くなってくるかと思えます。SNS の活用においては、今の公式サイトフォロワー数・インプレッション等の数字を見ると、イベント開催告知だけではなかなか広報するには厳しい数字かと思えますので、インフルエンサーの活用や戦略的なネタ作り、ストーリーを作っていくながら SNS を絡めた来場者の導線づくりを少し考えていかないといけないという風に感じています。この辺りはいかがでしょうか？事務局よりお聞かせいただければと思います。

もう一点、24 ページをご覧ください。緑の関心が低い層、戦略ターゲットと書いてあるところですが、こちらに関しては緑以外の何かしらの話題性のあるイベントや企画を仕掛けていくと書いてあります。最初の方にご説明のあった、ボランティアの方の注目度や参加人数の多さというのは、やはり緑への関心の高さ、そして緑化フェアに対してポジティブに何かできないかというふうに感じているのだと思います。一方で、それ以外の層は戦略的に巻き込んでいかなければいけないターゲットです。何か具体的な取り組み内容やお考え、特に意識してイベントや企画を作っていく予定というようなことが有れば、教えていただきたいと思えます。よろしく願い致します。

事務局（岸課長）

貴重なご意見ありがとうございます。1 点目の SNS の活用だとか、マスメディアにつきましては、資料 28 ページになります。議会の方でも少し同じ様な質問をされておりますが、インフルエンサーの活用というのは検討をしていく必要があるのかなと思っております。

そういった方に関しまして、緑に勿論関心のある層ですとか、緑で活動されているインフルエンサーみたいな方に、ご協力をいただきたいなと思っていますし、逆に 2 番目の質問と合致しますけれども、若年層ですとかそういった方にターゲットを絞ったインフルエンサーというのにも検討が必要かなと感じております。また全世代型のインフルエンサーの起用についても議会から提案がございますので、予算の関係等もあるので、多くの方の起用は難しいかもしれないのですが、少し考えていかないといけないと思っていますのでございます。

2 点目の若年層を含めたというところで、インフルエンサーは、回答の 1 つかと思っておりますが、2 つ目としては、資料 34・35 ページにあるように、単純に緑化フェアというものを言葉として市内に溢れさせても、100 周年のみたいな形で分かり易いものではないので、実際やっていただいたり関わっていただいたりして、緑化フェアを知っていただきたいと思っています。そういった中では、若年層向けの取組 Action をかけていきたいと思っていますので、こちらについては若い世代に関心のあるイベントですとか、あるいは取組自体に興味があるようなものを、今後 4 月以降も実験的に実施していきたいと思っております。我々も、どのイベントやツールが実際若い方に刺さるのか実はわかっていないところなので、手探り状態ですけど、例えばですね、今月 3 月は、東京の自由が丘でのイベントですけども、その中でも若者向けの植物とかワークショップをやっていききたいなと思っています。資料の 28 ページには、今後やっていかなければというところで、吹き出しに載せているのですが、先ほど言ったように若い方がどういった事を考えられているのかは、我々がいくら考えても實際形にできないというところがありますので、実際そういった方をフェアの核心の中に取り込ませていただいて、実際に一緒に係ってどういった方がいいのかを企画と一緒に考えていただける仕組みや枠組を、来年頭に向けて作っていくことを考えております。その中でそういった方々と一緒に、どういったものが若い世代に届くのかを考えさせていただければと思います。あとはですね、先程の、少し別件ではございますが花壇ワークショップみたいなものを大学生の方と一緒に取組む事例もございますので、そういった緑に関心はあるのだけれどもという若い層に対して、その取組を通して、今後どういった形での発信だと、若い方に届きますかといったところは引き続きお伺いしながら、改良させていただければと思っています。以上でございます。

福岡幹事長

大西幹事ありがとうございました。それでは反町幹事お願い致します。

反町幹事

反町でございます。実は私今日、午前中ですね、地元の等々力緑地の会場を見させていたがきまして、丁度先程の資料の通りに実際に上がって見させていただきました。元々地元で子供の頃から遊びまわっていたようなところになるのですが、資料に紹介されているような

色んな設置物・装飾とかが、実際置かれるイメージとか、実際にフェアとして展開されるイメージを持ちながら歩いたのですが、元々知っている場所なので、改めてというところにはありませんでしたが、やっぱり色々気になるところがありました。特に気になった場所は、ウォーターガーデン。釣り池の所ですけれども、あまり綺麗とは言えない状況でした。ご存じの方が多いとは思いますが、あの場所をどんな風に緑化フェアとしてふさわしい様に見せていくのかなというところがちょっと気になったところでございます。

なお、私は行催事担当として皆様とは立場が違ったところで申し上げさせていただくと、今ちょうど緑化フェアのホームページのところで、色々な事業を募集するプロポーザルを実施していますが、緑化フェアが成功するために、川崎市と一緒にあって、作っていくということが重要だと思います。プロポーザルにエントリーしようとしている人にとって、今は企画を作ったりするタイミングではないかと思うのですが、商店街の人から、正式にエントリー企業から相談とか依頼とかは今のところは無いという風に伺っているところがございます。4月5日に、商店街連合会の支部長会という基本月に1回行われる川崎市全部の区の商店会連合会の会長さん全員が集まる日というものがあるのですが、そこで正式にご説明に来ていただけると聞いています。しかし、特段プロポーザルに参加しようとされている企業さんからも連絡はないと聞いています。私は商店街の代表ですけれども、私自身、川崎の色々なイベントとかコンサートといったものを作る仕事を本業でやらせていただいているので、川崎に特化していますので、川崎全部の区で行われている音楽祭、役所コンサート、市民コンサートとか色々なコンサートに携わらせていただいております。そんな中、エントリーされる事業者さんから問合せとか相談とか、情報提供の依頼とかがあるかと思い、実は、弊社として準備をしておりました。どこまで情報をお渡ししてどこまでどういう風に回答するかも決めていたのですけれども、結果として、正式にご連絡をいただけたのが、1社しかありませんでした。きっと他にもエントリーをされる筈で、少なくとも川崎の地域とのイベントとか、ゆかりがある音楽家さんとかイベント関係者さんとの繋がりといったところから、弊社そういうところでやっている自信がある、うちとしてしかできないようなものもある中で、結果として1社からしか連絡なかったというところで、逆に他の事業者さんは、うちと一切のアプローチがない中で、地域との繋がりないところで、一体どんな企画を提案するのかと、率直に思いました。ですから、複数社から声がかかっても、同じ対応をしようとは考えていたのですが、結果的に1社しか来なかったのも、その1社さんは、非常に丁寧に、凄くうちの会社の実績などを調べてご連絡をいただけましたので、ご協力させていただきますが、逆に他の業者さんは一体何をやるつもりなのかと感じました。

川崎市民の方々との繋がりといったところで、例えばステージプログラムもそうですし、例えばワークショップですとか、色々な内容あるかと思いますが、公募だけでやるのは厳しいと思っています。普段、取り纏められている方がいらっしゃるって、特に今回緑化フェアでは、川崎市民総参加でやっていくというところで、公募で集まった方たちでそれをやっていくのは、結構難しいと私は思っています。コーディネートしたり、導いたりできるよく地域を

知っていらっしゃる方が、皆さんに対して皆でやるぞときっちり伝えていくことが大事だと思っているので、川崎全土の取り纏めや、川崎で横のつながり等考えたときに、ワークショップといったらこの人という人がいらっしゃるの、そういう方にも特にそういう連絡がほとんどないようなことですので、共催地として、ちょっと大丈夫かなと不安になったというのが一つ感じたところでございます。

どちらにしても、フェアもいよいよ動き出していくというところで、どういう形になっても、商店街としても、そして川崎のイベントを提案させていただいている立場としても、緑化フェア成功のためには、頑張るしかない、やれることをやりたいと思っている気持ちがあります。今後、川崎ならではのイベント・フェアにできるように、あらゆる形で協力、頑張らせていただきたいという気持ちは持っておりますので、この場を借りて伝えさせていただきました。以上です。よろしくお願い致します。

事務局（藤井課長）

ありがとうございます。商店街さんとの関係ですけれども、例えば川崎区の方で言えば、駅から富士見会場まで商店街になっていると思うが、資料13ページの真ん中のところですね、それは熊本フェアの事例ですけれども、このような取組を調整していたりですか、あとは中原区の方で言えば、区の方で商連の活動に加えさせていただいて、緑化のお話をさせていただいております。今後バナーの広告の掲出させていただきたいというようなお話もさせていただいたところでございます。全体からこう大きく表現させてお話をさせていただきたいところ、個別に進めたい話をさせていただきたい部分と色々とございますけれども、引き続き反町幹事にもご協力いただきながら対応していきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

事務局（矢口課長）

続きまして行催事の関係ということで、貴重なご意見をありがとうございます。市の総参加型を目指しているフェアということと、また川崎で活躍されている方々が輝けるような場であるフェア、そういったようなことを目指していきたいと考えております。実はプロポの方で事業者も募集しておりますけれども、その中におきましても、市内で活動・活躍している方々の場として、しっかり考えている、重きをおいていることを仕様として書かせていただいております。こちらとしては、そのような視点からプロポーザルを選考していく予定でございます。また、選定された事業者さんのみで進める訳では勿論ございませんので、そこで提案された企画に対しまして、実行委員会としてどのような形で進めていくかということが、本番の進め方でございますので、またその進め方につきましては、反町幹事からのご意見も必要と考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

反町幹事

大変ご丁寧にありがとうございます。一点だけ申し伝え忘れてしまったのですが、先ほど紹介されたミモザのイベントがありましたが、実は私は、ランタンステージのステージディレクターという立場を務めさせていただいて、ランタンの段取りも含めて、ずっと一日見させていただきました。おそらく同じ感想を持たれた方が多いと思いますけれども、この時のランタンの仕様で光の強さが、かなりギリギリだったと感じました。写真だと割とちゃんと光っているように見えますが、私は直前までランタンの電源か何かがあって、入れると思っておりましたが、私から「電源はこれでいいのですか」と聞きましたら、「これでもう入っています」と言われました。それで会場の明かりをできるだけ暗くしようとなり、消す予定ではなかった照明を消して対応しました。結果この明るさだったというところですので、課題はあるなと思いました。今回は特徴的な会場の環境でやったので、今後またこれの凄いものをやられると思いますので、このところをちょっとブラッシュアップしてできたらいいのかなと思いました。以上です。失礼致しました。

事務局（矢口課長）

すいません。ただいまお伺いいたしましたミモザのランタンの方、お世話になりましたありがとうございます。私どももランタンを上げるにあたりまして、色々な条件が実際のミモザの開催を通して見えてきたところがございます。フェアの中で夜のイベントとしてこちらの企画を考えているところがございますけれども、やはり周辺がこうぐると暗い空間が望ましいだろうと。ただその直前まで、きちっと足元の安全性が確保できるような形は必要だなというところなど、色々気づかされたことがございますので、ただ今のご意見につきましては、大変貴重なご意見だと受け止めております。安全に楽しめるイベントとなりますよう進めていきたいと思っております。

福岡幹事長

萩原幹事お願いいたします。

萩原幹事

萩原です。一つずつ見せていただいて、凄くしっかり、ひとつひとつが進んでいるなと思いました。すごいご苦勞をされていると思います。で、一番いいなと思ったのは子供達を巻き込んで色んなイベントが、今までのどのイベントでもされているということが、この全国都市緑化フェアが一過性のものでなくて、これから先も続くということはとても大切なことだなと喜んでいきます。

しかし、学校名とか幼稚園名とか保育園名とかが何も出てこないの、どこの大学さんとかどこの保育園が一緒にやってくれたかというのは、凄く知りたいところだと思います。このイベントでは、協賛金のこと、2月までに振り込まないと、テキストで社名が出ないとお聞きしましたので、それもさせていただいたのですけれども、そういうお金を出したからテ

キストに入るということではなくて、一緒に協力して下さっているそういう子供達の学校名もどこかに記載をしていただきたいなと思います。そうすると他の学校も、うちの保育園でも、うちの高校でもやってみようかと広がっていくと思いますし、それこそ次世代に繋がっていく大事なことかと思しますので、これからやっていただきたいと思います。3月23日の等々力でのイベントの話ですけど、これはプレイベントということで、同じ日に武蔵小杉のコアパークでこれの一環をするということをや地域振興課の方がチラシを持って私にお知らせにきたので、そこで初めて知りました。これも川崎市立東住吉小学校が絡んでいるということで、凄くいいことだと思っておりました。ただその後で、それは実はこの等々力でやるイベントの一環ですという事を知りまして、地域振興課からそういう話は言われませんでした。チラシが出来たのが本当に数日前ということで、3月23日のチラシが本当に2~3日前に出来上がったとすれば、もの凄く遅いので、私みたいに武蔵小杉に住んでいて、結構土地関係を知っている人でも知らないという、そういうその広報の遅さが気になる場所です。例えば、ミモザフェスタですね。多分ラ チッタデッラさんだけでなく、例えばアトレさんだったり、日航さんだったり、いくつかの店舗がああ周辺の全体をミモザにしようとしてやっている私は素晴らしいイベントだということを思っているのですが、今ちょっとスマホで調べてみたら、ラ チッタデッラさんの事しか出てこないのですが、やはりその地域で、そこに参加しているところは、どこのお店でどこの店舗でどんなメニューを出しているかというのは、調べた人がすぐ見つかるようにしていただいて、その回遊をして初めて素敵な街になると思います。ラ チッタデッラさんだけでなく、周りを巻き込むことで、全国都市緑化フェアの考え方でも絶対同じだと思うので、どこか1軒だけじゃなくて、そこに繋がる情報が出ていて、探した人に見つかって、そこに行ってみようと思わせることが凄く大事かという風に思います。やはり成功に導く為には、広報のタイミングの早さも大切だと思います。さっきグッズの話が出てきて、ピンバッチ驚きました。2027年の横浜の、ピンバッチがもう出来ているんですね。それくらい前もって色々なものを仕掛けていかないと、もうちょっと遅い、今年のイベントですので、どこをどう急ぐかということもあると思いますが、広報を先にあげるとするのはすごくは大事ではないかという風に思いました。

飲食と物販についても、私も区内の飲食店が集まった会やホテルが集まった会とかで、何回もこの話をしているのですが、いらしていただいても、具体的なやりとり・やり方が見えてこないで、年に何回しかこういう機会がないので、タイミングを逃すともう間に合わなくなりますので、お願いしますから出してくださいと何度も言っているのですが、こないだの話ではいよいよ4月過ぎてから具体的な報告ができるということで。例えば川崎夜市みたいなのが凄く良い例だと思うのですけれども、ラ チッタデッラであったり、川崎の駅前であったり、そこであっちもこっちもこんなイベントをやる、そんな中で参加する地域の飲食店なんかそれぞれのメニューを出して、それがそのデジタルマップのところから、ホームページからこう、どんなことをしているどんなものを売っているが見られるということをや

している。それも、前の年のやり方だと券を先に発行してしまったので、金額のチケットです。結局ものすごく混み過ぎてどこの店にも行かれない、返金しろという騒ぎとなりました。その反省点もあって、次の年には、それぞれのお店が見られるようにして、それでお客さんが買ってということが出来たという。節目でこういうイベントでこれやったらこういう失敗をしてしまった、こうなったから凄く良かったねという話が色々あるかと思いますので、それを市役所さんの中で、部や課を横断して、経済労働局さんがやっているなど、色々あると思うので、そちらの方のノウハウを使っただけであれば、それで今回の川崎だけではなくて、うちに懇意のある先だけでなく、等々力とその周辺、生田とその周辺など、別のエリアもあるので、そこも川崎が先進事例かと思えますけれども参考にしながらやっていただくと、これも早くしていただかないと、色んな仕込みが出来なくなると思いますので、各レストランだったり、お菓子屋さんだったりホテル等が、どういことをしようかなと考えるのが今の時期になるので、是非ともお願いしたいと思います。ここは、商店街さんも絡んでいる所だと思います。

あと、ボランティアさんが多く集まったのは嬉しく思います。植えたらそのあと水やりをしていかないといけないので、レガシーとして、残るのであれば、誰がその地域で水やりをする人たちとか会社が大事な事になると思います。これは後々のことも考えて、皆で一緒に育てていければいいかなと思います。以上です。

事務局（矢口課長）

萩原幹事、色々とうございました。私も今回は学校の取組の話、それから飲食関連の話などさせていただきたいと思います。最初の取り組んでいる学校名などの明記の話でございますが、来年度ですね市内の学校 170 校を参加いただいた花の前に明記させていただくことと、そのお花は、学校でしばらく育てていただいて、その育てた花の一部は、フェア会場に、そして一部は学校の内外に、そして一部は通学路や公園にという形で、地域で活動する方々に手渡しして、地域の方が受け取って、また愛でていただくという風に進めようと思って考えております。その時に、私たち何とか小学校がこの花を育てましたというところを書けるようなプレートを現在準備しております、そのプレートの所にお花を置かせていただいて、地域に見ていただく、あるいは学校の周辺にこういうお花を植えましたよという事を子供達が紹介文章を書いて、学校の周りを飾っていただく、そういった形で、子供達が主体的に関わっているということを表されるように考えております。コア会場の方も、その子供達が参画した花壇につきましても、参画したこれまでの取組を写真ですとか、そういったもので紹介しまして、学校名の方も紹介してまいりたいと思います。また個別の学校からこんな取組をしましたよという情報や私どもの方で取材した情報につきましても SNS 等で積極的に発信をしていきたいと思います。

そして、最後におっしゃっていただきましたボランティアの継承のことでございます。今回植物育成、管理のボランティアの方々、今回初めての取組でいらっしゃるという方がおりま

したが、今回の取組は秋と春でございませう。秋には、皆様が一旦こういったフェアを体験したといったところで、体験したことをそれぞれの方が話し合い、あるいは市の方から、こういう場所で皆さま活動していただける場所がありますよという情報をお伝えしまして、今後地域で活動を続けていきたいという方々に、しっかりとマッチングできるような形で今、繋ぎ目を作りたいと考えております。もう一点、飲食の関係でございませう。デジタルマップなどの会場の外のエリアの飲食店の魅力的な情報等をどういう手段で伝えるかというところに関しましては、こういったマップなどの情報活用も考えてまいりと思っております。色々なやり方がございまして、私共も先日夜市の関係で、経済産業局の担当者とも色々意見を交換させていただいております。過去上手くいかなかった例も交えながらしっかりと話を伺い、より良い形にしていきたいと思っております。

事務局（岸課長）

併せまして、広報の関係でございませうけれども、2点、まず3月23日のイベントに関しましては、内容が固まるのが3月の頭位になってしまった関係で、報道の方も3月5日にさせていただいたところでございませう。23日ということとございませうので、これからも周知は続けていくところでございませうけれども、こちらに関しては、チラシの方は、図書館ですとかに直接お届けさせていただくというところと、イベント自体が、川崎市役所だけで発信するだけという形だと、かなり広報が弱いところがあるのですけれども、今回一緒に取り組む、川崎ブレイブサンダースや区役所、プレイグリーンパーク、その他のプレーヤーさん、指定管理者さんもそうですけど、そういったところ広報・発信をしていただきたいと思っております。取組としましては、一日小杉を満喫していただきたいと思っておりますけど、様々なプレーヤーさんを経験・体験していただきたいところがあるので、それについては、市だけでなく、広報巻き返しできるかちょっと気になっているところではありますけれども、頑張って進めたいと思っております。

もう一点、全体的な広報の遅れについて、こちら少しジレンマというところもありますが、先程お話をさせていただいた通り、方針としては、1月入ってから、まず100周年を市内に向けて大々的に広報してくというのが、市の方針というところですので、緑化フェアについては、その間については、広報はしますけれども、どちらかという取組の中で発信させていただくとか、広報するにあたって、100周年と一緒に控えめにいうところは考えています。今後、色々な機会で節目がありますので、そういったところで発信させていただく、あるいは取組の中とは別に、インフルエンサーの方に100周年と併せて発信してもらおうなどの話を進めたいと思っておりますので、ちょっと8月までは、できれば100周年の方を応援していただいてというところを併せて広報の方は、見ていただければと思います。以上でございませう。

萩原幹事

そういうこともあるかとは思いましたが、100周年のメインイベントが緑化フェアなので、そんなに遠慮する必要は全然ないと思いますし、8月過ぎてから、10月始まりますと言うのでは、全く遅いように思いますので、是非よろしくお願いします。あと、飲食の方で大事なことを言い忘れたので、食品衛生の点がものすごく心配です。やはりコロナが明けて、食中毒が急に増えてきたことで、大きなお祭りで大きな食中毒が起こって、全国ニュースになって、と、考えましたら、本当に川崎の一大事になるとわれ、普段扱っている衛生許可を受けたものとは違う規模の数や、置く時間、夜中作って、朝すごい量を運び出して、それを会場の外に置く、それを買って食べていただいて、その方がもしかしたら、持ち帰っておうちで食べてしまうかもしれないなども含めてものすごいリスクが高いです。なので、このことは食品衛生許可を取っているから大丈夫ですという話ではないので、ちょっと徹底して対応をお願いしたいです。

あと、SDGsの関係で、色んなやり方がとあると思うのですが、例えば、容器をバガスにするとか、環境不変型のプラにして、完全にプラの再利用を目指すとか、紙で包んだ形では、バイ菌が増えることを考えると、食品衛生上あまり良くないのですけれども、色々なことが考えられると思うので、そこを気にされて統一をされたらよろしいかなと思います。あと、イベントが長くて1カ月に渡るものあると思いますので、食品・飲食店それから物販を出しますよというお店が、その期間ずっと出られるかと言うと、早々できるものではないと思うのですね。自分のお店を閉めないイベントには出られないなんていうこともあると思いますし、従業員にしてもそれだけの期間、長時間やらせるということは、とても無理だと思いますので。特に土日祝日イベントの日とかには出られるけれども、他の日は、例えばですけど、キッチンカー等にふさいでいただくなど、色々な組合せが可能になってくるかなと思いますのでその辺もご配慮、検討が必要となってくるのではないかと思います。よろしくお願ひいたします。

事務局（矢口課長）

萩原幹事、ありがとうございます。私も食品衛生につきましては、夏だけの話ではなく、冬でも起きることがあると思います。私共も、衛生の部署の者と、一緒にそこら辺は学習しながら、問題がない様に進めていきたいと思っております。あと、飲食の方の出店のパターンでございます。土日祝日、あるいは平日のみ、あるいは1週間単位でとか、各店舗それぞれお店の関係で、選んでいただきやすいパターンというものを、提示させていただきたいと思っております。またちょっとそこにつきましては、幹事に相談させていただきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

福岡幹事長

深町幹事お願ひいたします。

深町幹事

ノベルティの中に、フラワーカードというのがありますが、今、広報の話にもありましたけれども、市民の方がすぐできる広報として、これ丁度3月4月の撒き時の種があったと思います。フラワーカードをただバラ撒き、それでは育てて下さいではなくて、芽が出るところまで「芽が出たよ」というところだけでも凄く大きな広報になると思うので、今持っている方は是非撒いてねというようなことを一言発信していただいて、で、写真をアップするという、それこそ職員の方で今持っているという方は、とりあえず、挿して、芽が出たよと言うだけでも、緑化フェアの広報になると思います。

事務局（岸課長）

ありがとうございます。検討致します。

福岡幹事長

はい、ありがとうございます。私の方から、最後に手短にいくつか申し上げたいと思います。まず会場計画に関しまして、資料2の1ページ示していただきまして、会場計画に関しては、それぞれの会場で何をするかということ、今この図面の中に動線と大まかなエリアが示してありますけれども、一番の問題はこの競輪場の周辺に壁が建っていたり、あとはカルツかわさきとの関係など、会場を整備する上で、何を実現しようとするのか。会場として設定されているところに、通常の緑とか花の一部に貼り付けたり割り当てたりするだけではなく、もう少しこれが会場計画の先に、例えばカルツかわさきと連携して競輪場と会場との壁を取り払っていかとか周りとの関係はどうかという、会場とやること含めてもう少しその周辺を含めた計画というのが必要だと思いました。それが1つ目です。

次に、街との関係が、今度は14ページの等々力との関係で話をしたいと思いますけれども、富士見の場合はエリアマネジメント主体とかまちづくり協議会等は無いと考えていますけれども、等々力の場合は、武蔵小杉のエリマネが駅前にまちづくりの主体あり、等々力は指定管理者の事業者の連合体があります。その間、ニカ領用水の空白地帯は、誰と一緒にそのエリア全体を盛り上げていくかという主体が出にくいといったところです。ですので、会場計画をしていく上で、もうちょっと街の図の解像度を上げていただいて、どの道とかどの広場とか、どの企業さんとかのところのターゲットを絞って、会場エリア全体の計画全体を考えていくことをした方が良くと思います。それが1つ目、会場計画の話ですね。

2つ目は、等々力ですけれども、今日午前中にスポーツ庁の事業で、橘公園で展開しているみんなが体を動かしたくなるスポーツのまちづくりという実験の見学をしてきました。それは、公園担当がむしろ主体ですけれども、等々力は実はスポーツや健康が大事な場所でもありますけれども、どうしても緑化フェアで花と緑の話もあったりして、クロスオーバーさせるというところですね、先程、食の話もありましたけれども、是非川崎ブレイブサンダースもいますし、川崎フロンターレもいますんで、もうちょっと、そこの組み合わせ・掛け合わ

せというところを考えていくことが大事だなと。それが2つ目です。

3つ目は、主体論でけれども、小中170校ということで、かなり、目標は達成していると思いますが、そういった意味では、高校・大学も含めてもう少しどのくらいの人数なのか、学校の数なのか、それからプログラムの参加主体の数なのか、少し目標を設定してやっていただけたら、その後もオンラインなどで、そういった関係主体がアプリとかデジタルネットワークの力を使って新しいソーシャルネットワークになるような仕組みができればいいかなと思います。裾野を広げるのはこれで良いけれども、先程、反町幹事からお話がありましたように、もう少し事情が分かっている団体、例えば、まちづくりの組織とか、中間支援組織とか、スポーツの団体とかすごくたくさん川崎地域に関係がある団体がいると思いますが、そこにどうやって彼らがやっている既存のプログラムに緑化フェアを重ねて動けるかということは、もう少し川崎らしい仕組みが取れないかと感じました。全体的に裾野を広げる話と、川崎らしい人たちの特徴出しや働きかけは切り分けて、気軽に出来ればいいなという風に思います。その時にはやはり、最終的にどんな目標を設定しているのかが関わってきますので、そこだけ視野をもっといただければと思います。以上です。お答えがもしあれば、完結で結構ですので、よろしく願いいたします。

事務局（藤井課長）

ありがとうございます。まさに今回会場の話が多かったのですが、仰っていただいたように、そこにちゃんと取組をしっかりと乗せていくということは、まさにそこが川崎らしさに繋がってくるのではないかということ、色んな場面でちゃんと認識しておりますので、今後の意見として留めさせていただきます。

事務局（矢口課長）

協働の関係ですけれども、今、100周年の方に参画している学校とかが名前として出ておりましたけれども、緑の川崎の取組についても、取組を把握して、どこかのところで発信できるように取り掛かりたいと思います。

福岡幹事長

ありがとうございました。まだもう一つ議題が残っておりますので、ここでもう一回事務局の方へお戻しして、資料4.5の補足をお願いしたいと思います。

事務局（木村次長）

ありがとうございます。今、紹介をいただきました資料4.5の補足のところをご覧くださいればと思います。こちらの方は、今度3月24日の日曜日になりますが、開催を予定しております実行委員会の第4回総会の概要となっておりまして、その中で今、質疑をいただきました「全国都市緑化フェアの取組状況について」というところを福岡幹事長にご報告を

いただきたいという風に考えております。この点につきまして、幹事のみなさまご意見等あればお伺いしたいと思います。いかがでございましょうか。

幹事の皆様

異議なし。

事務局（木村次長）

ありがとうございます。それでは福岡幹事長よろしくお願ひいたします。

3. 「実行委員会第4回総会の議案について」について（資料4～5）

事務局（岸課長）

続きまして、資料4・5につきまして、私の方からご説明をさせていただければと思います。資料4につきましては、令和6年度の事業計画（案）というところがございます。1枚めくっていただきまして、こちらについては予算（案）というところがございます。こちらにつきましては、改めて会議の開催ですとか、事業計画の実施の内容をそれぞれ括弧1から、協働推進の内容が書いてありますけれども、今お伺いしました課題につきましては、今までの資料ですとか、基本的な考え方を記載しているものとなります。

資料の5は、令和6年度収支予算の案というところがございます。1枚おめくりいただきまして、1ページですが、令和6年度の収支予算につきましては、収入は、負担金と繰越金の合計で22.4億円となっております。併せて支出につきましては、総務費と事業費として、会場、出店展示、行催事等を合計しまして、22億3千万と、総務費と合計で合わせて、収支収入と合わせて22.4億円となっております。1枚めくっていただきまして、今年度の収支の決算見込み、こちらはまだ見込みというところがございますが、収入につきましては、昨年度の繰越金と今年度の令和6年度の負担金併せて286,082,016円でございます。支出につきましては、見込み額ではございますが、総務費と事業費合わせまして、決算見込みとして、275,441,820円、差し引きとして、予算額から差し引くという形になりますが、10,640,196円という形の決算報告の見込みとなっております。収支の残高につきましては、翌年度に繰り越しということで報告予定となっております。簡単ではございますが、資料4・5につきましては、以上でございます。

福岡幹事長

ご説明ありがとうございました。資料4.5につきまして、皆様からご意見等がありましたら、よろしくお願ひいたします。いかがでしょうか。

よろしいですか。それでは、事務局の方へまたお戻ししたいと思います。

事務局（木村次長）

ありがとうございます。只今説明をさせていただきした資料につきましては、実行委員会第4回総会において、議案として提出させていただきます。当日の説明につきましては、事務局の方からさせていただく予定でございます。よろしくお願いいたします。

福岡幹事長

それでは、他にご意見等がなければ、進行をお戻ししたいと思います。

事務局（木村次長）

福岡幹事長、ありがとうございます。事務局からは以上でございますけれども、その他幹事の皆さまから何かありますでしょうか。

4. その他

渡辺幹事

ありがとうございます。今後の幹事としてのスケジュールをご連絡いただきたいと思います。が、会期が始まる前に接触する機会としては個人的に会場を見に行くという形なのか、一同幹事で見える機会を想定されているのか。秋開催に向けて、課題やクリアしないといけない内容を議論するためにも、8月頃に幹事会をやる予定ですね。2カ月を切る辺りで、どのくらいの準備状況かにもよるところだとは思いますが、事務局として、現場視察のお考えがあるのかを確認したい。

事務局（岸課長）

来年度の予定に関しましてはですね、2点ございまして、1点目5月に川崎市の方で来年度頭のキックオフ本部会議がありますが、その後に個別のヒアリングという形におそくなるかとは思いますが、幹事の方々と確認させていただきたいなと思っております。全体としては、第5回の総会が、9月にありますので、そこに向けての幹事会というところと、10月の実際の現場については、見ていただく機会を設けたいと思っておりますが、その前となると、今のところ、8月の幹事会までに個別のヒアリングと8月幹事会の意見を併せて、本番のフェア、秋開催に臨みたいなと思っております。振り返りににつきましては、今12月の末に、形式上の形としては幹事会と載せておりますけれども、是非必要に応じてですね、春に向けてというようなところで、個別ヒアリングというのを実施する予定があれば、そこで対応をしていきたいなと思っております。以上でございます。

渡辺幹事

ありがとうございます。となると、例えば現地の状況とか、街中の会場等の確認は個人の裁

量に任せるというお考えであるということでしょうか。

事務局（岸課長）

5月6月の個別のヒアリングの際に、ご意見がございましたら、対応させていただきたいなと思っておりますし、会場計画とかそういうところで、個別に確認していただきたいところなどあれば、またそれぞれ確認していただくというようなことがあるかもしれないので、そこは個別に確認させていただく形になると思いますので、そこは臨機応変に対応をさせていただければと思っています。

事務局（木村次長）

ありがとうございました。本日だいぶ時間を超過してしまいまして、申し訳ございませんでした。また併せて冒頭で私の方から、3.11の黙とうの紹介をしたのですが、どうもホールは放送が入らないようで、本当は庁舎内、アナウンスが入るという予定でしたけれども、こちらの方には届かなかったということで、申し訳ございませんでした。その時間が設けることができませんでした。失礼致しました。

5. 閉会

事務局（木村次長）

それでは、他にご意見等ございませんようでしたら、これにて会議の方終了とさせていただきますと思います。先程も申し上げました通り、3月25日月曜日には、実行委員会の第4回総会がございます。そちらで、本日の内容や書類の通り、事業計画及び予算案の方を報告致しますので、併せてご確認いただければと思います。いよいよ、正面にございますけれども、秋開催まで222日ということで、それを見ながら我々も組み立ててはおりますが、後手に回ってしまっている部分につきましては、是非皆様からのご指導等をいただけるのなら、お役に立てていきたいと思っておりますので、引き続きまして、アドバイスをよろしく願いいたします。それでは、以上をもちまして、第6回緑化フェア幹事会を終了させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。